**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和6年6月**

 雨の中のさん菩薩

**秋田県 永泉寺副住職 猪股尚典老師**

私達に身近な仏様として菩薩があげられます。菩薩は自分の事を差し置いて他人を救う誓いを立てられた方で、その慈悲の行いを菩薩行といいます。私達とかけ離れた存在のように聞こえるかもしれませんが、皆様は菩薩のような人に救われた経験はないでしょうか。

私には梅雨の時期になると思い出す忘れられない出来事があります。学生時代免許をとって間もなくの頃、一人雨の降る夜の国道を運転していたところ、突然車の電気系統が故障してエンジンが止まってしまったのです。ハザードランプもつかない状態で、大変危険な状況でした。運転初心者の私はどうすればよいか分からずとても困っていた時、一台のちょっとかっこいい車が止まって、中から若い男性が降りて声をかけてくれました。最初はちょっと怖い人かと思ったのですがとても車に詳しい方で、事情を話すと急いで助手席に取り付けられていた発煙筒に火を着けてくれて、後方の安全を確保してくれました。それに気づいた他の車も何台か止まってくれて、動かなくなった車を皆で押して近くの空き地に移動してくれたのです。本当に命拾いしました。もし最初に助けてくれた男性がいなかったら、大事故になっていたかもしれません。どうしてもお礼をしたくて連絡先を伺ったのですが「困ったときはお互い様だよ、気を付けてな！」とだけ言って帰ってしまいました。

　この見返りを求めない慈悲の行いに、運転初心者の私がどれだけ救われたことか分かりません。最初に怖い人かもと思った自分を恥ずかしく思いました。さらにその親切な行いは他の人たちにも連鎖し、一緒に車を押してくれたのです。その方も以前に親切をもらったのかもしれませんね。それから私は、困っている車や人を見つけたら必ず助けてあげるように心がけています。菩薩行の力は相手だけでなく、行った自分も幸せな気持ちになります。日々の優しい菩薩行が広がり、皆が穏やかに暮らせる社会になる事を願います。